

平成30年度全国学力・学習状況調査結果(概要版)

平成30年7月31日
福島県教育委員会

調査に関する概要

実施日	平成30年4月17日(火)	
実施校数	小学校 431校(15,143人)	中学校 218校(15,908人)
調査学年	小学校6年生	中学校3年生
調査教科	小学校 国語、算数、理科	中学校 国語、数学、理科

- ※ 義務教育学校(前期課程・後期課程)を含む。
- ※ 特別支援学校(小学部)及び特別支援学校(中学部)を含む。

教科に関する調査の結果

教科に関する調査の結果の総括(公立)

- 本年度調査結果について、本県(公立)の平均正答率を、校種・教科・問題種に全国平均正答率を基準として見ると、小学校国語Aは全国平均をやや上回っており、小学校国語B、小学校算数A・B、小学校理科、中学校国語A・B、中学校理科はおおむね全国平均、中学校数学A・Bは全国平均を下回った。
- 中学校数学が本県の課題である。

※ 国の公表方針及び提供資料に基づき、今年度から整数値での公表としている。

小学校 国語

- 国語Aの平均正答率は72%(全国70.7%)で全国平均をやや上回り、国語Bの平均正答率は54%(全国54.7%)であり、国語Bについてはおおむね全国平均である。

■ 国語A(主として「知識」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,143	431	72
全国	1,030,025	19,386	70.7

■ 国語B(主として「活用」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,141	431	54
全国	1,029,799	19,383	54.7

小学校 算数

○ 算数Aの平均正答率は64%（全国63.5%）、算数Bの平均正答率は51%（全国51.5%）であり、算数A・Bについてはおおむね全国平均である。

■ 算数A(主として「知識」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,143	431	64
全 国	1,030,013	19,384	63.5

■ 算数B(主として「活用」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,142	431	51
全 国	1,029,847	19,380	51.5

小学校 理科

○ 理科の平均正答率は60%（全国60.3%）であり、おおむね全国平均である。

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,141	431	60
全 国	1,029,828	19,278	60.3

中学校 国語

○ 国語Aの平均正答率は76%（全国76.1%）、国語Bの平均正答率は61%（全国61.2%）であり、国語A・Bともにおおむね全国平均である。

■ 国語A(主として「知識」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,908	218	76
全国	966,764	9,595	76.1

■ 国語B(主として「活用」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,904	218	61
全国	966,786	9,594	61.2

中学校 数学

○ 数学Aの平均正答率は64%（全国66.1%）、数学Bの平均正答率は44%（全国46.9%）であり、数学A・Bともに全国平均を下回っている。

■ 数学A(主として「知識」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,904	218	64
全国	966,969	9,591	66.1

■ 数学B(主として「活用」に関する問題)

	生徒数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,899	218	44
全国	966,908	9,591	46.9

中学校 理科

○ 理科の平均正答率は66%（全国66.1%）であり、おおむね全国平均である。

	児童数	学校数	平均正答率(%)
福島県	15,888	217	66
全国	967,188	9,588	66.1

児童生徒質問紙調査の結果

全国と比べると、福島県の児童生徒には次のような特長が見られる。

- 学校の授業時間以外に、1日1時間以上勉強している割合が高い。
- 将来の夢や目標を持っている割合が高い。
- 自分のよさを認めることができる児童生徒の割合が高い。
- 地域や社会のことをよくしようと考える児童生徒の割合が年々増えている。

※ 「肯定的な回答」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」など肯定的な選択肢を選択した回答です。

〈質問番号〉(小：14、中：14)

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」について

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は75.6%、中学生の割合は74.5%であり、どちらも全国の割合(小：66.2%、中：70.6%)より高い。
- 月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は4.7%、中学生の割合は7.5%であり、どちらも全国の割合(小：9.9%、中：12.8%)より低い。
- 月～金曜日に1時間以上学習している割合は、29年度調査結果より、小学生で1.1ポイント、中学生で0.8ポイント高くなっている。
- ◇ 学習習慣が確立されていることは大きな成果であり、福島県の強みと言える。今後は、自分で計画を立て、実行し、評価・改善していく自己マネジメント力の育成を視野に入れて指導していくことが求められる。

〈質問番号〉(小：3、中：3)

「将来の夢や目標を持っている」について

- 肯定的な回答の割合は、小学生は86.3%、中学生は74.4%であり、どちらも全国の割合(小：85.1%、中：72.4%)より高い。
- 直近3年間の結果を見ると、「将来の夢や目標を持っている」小学生・中学生の割合は年々大きくなっている。
- ◇ 将来の夢や目標は、学びに向かう力の基盤となるものであり、今後もキャリア教育の充実が求められる。また、家庭においても将来の夢や目標について話し合う機会を一層増やすことが望まれる。

〈質問番号〉(小：1、中：1)

「自分には、よいところがあると思いますか」について

- 肯定的な回答の割合は、小学生は82.6%、中学生は79.1%であり、全国の割合(小：84.0%、中：78.8%)より小学生は低く、中学生は高い。
- 29年度調査結果と比較すると、小学生は6.2ポイント高く、中学生は10.3ポイント高くなっている。
- 福島県の児童生徒の自己有用感については、東日本大震災以降、課題となっていたが、年々向上している。
- ◇ 自己有用感の醸成は、学習意欲を促すものであり、今後は学習の個性化と指導の個別化を図るとともに、一人一人の児童生徒の非認知能力に関わる指導支援の一層の充実が望まれる。

〈質問番号〉(小：22、中：22)

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」について

- 肯定的な回答の割合は、小学生は52.9%、中学生は42.6%であり、どちらも全国の割合(小：49.9%、中：38.7%)より高い。
- 「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある」と回答している児童生徒の割合は、平成25年度以降増加傾向にある。
- ◇ 震災があったからこそ芽生えた児童生徒の地域社会に対する見方・考え方の育成を図るため、地域社会をよくするために何をすべきかを考えさせる学習の機会や指導を、今後も家庭・地域と一体となって取り組んでいくことが望まれる。

生活圏平均正答率の状況

- 県内の生活圏別（県北、県中、県南、会津、南会津、相双・いわきの6地域）平均正答率において、校種・教科・問題種類ごとのばらつきは見られない。
- それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析するとともに、児童生徒一人一人の学びに応じた、指導の個別化を図る授業改善等の具体的な取組を強化していく必要がある。



